

身障者の自動車運転免許

教習料を 援助します



- ① 上肢、下肢障害者または体幹機能障害者で、運転適性検査の結果、特別に改造された自動車の運転のみに限定された者。
 - ② それ以外にも、特に必要と認められた者。
 - ③ 所得税が課税されていないか、年税額三万二千四百円以下の世帯。
- 援助額
- ① 所得税非課税世帯：教習費の全額を援助。
 - ② 所得税が年額三万二千四百円以下の世帯：教習費の半額。
 - 基準教習回数
- 運転技術を習得するための技能教習回数は、原則として七十教習回数です。
- ※その他、詳しくは福祉事務所（電話四一―一一一、内線二六・三〇）へお問い合わせください。

栃木県では、自動車の運転免許を取りたい身体障害者に、その技術習得に必要な費用を援助することになりました。

希望者は、市福祉事務所へ申し込んでください。

○ 対象者

身体障害者家庭の 奉仕員を募集

市は、今年度から、身体障害者の家庭を訪問し、家事や介護など、日常生活のお世話をする「身体障害者家庭奉仕員」を採用し、重い障害に悩んでいる方の福祉の向上を図ることにになり、奉仕員を次の要領で募集し

- ています。
 - ▽ 募集人員 女性 一名
 - ▽ 年齢 三十五歳～四十歳まで
 - ▽ 給料 面談のうえ決定
 - ▽ 申込期日 九月二十日まで
- ※申込用紙は、総務課庶務人事係にあります。

あなたがい 善意

七月十五日から八月十四日まで、善意銀行にお金や品物をお寄せいただいたかたの、お名前をお知らせします。ご協力ありがとうございました。ご協力ありがとうございました。（敬称略）（一）内は住所。

- ▽ 阿久津智子（東和町）五百円、▽ 知野カツ（稲荷三）千五百円、以上市内援護家庭に。▽ 匿名 四千円、市内交通遺児に。▽ 小林芳樹（匠町）八千円、心身障害児のために。▽ 鶴島清治（安川町）四千円、市内老人福祉のために。竹沢啓三（御幸町）千円、下野三楽園に。▽ 同志会（代表石山強）十七万四千六百八十六円、日光市難聴老人愛護のために。▽ 星野亮店（安川町）三千円。老人ホームに。▽ 津山栄次郎（東京都台東区）雑誌三百七十三冊、社会福祉事業者に。▽ 鶴島アヤ（安川町）オシメ二十枚、市内老人入院患者に。▽ 野口老人クラブ（会長湯沢貞治）竹ボウキ十六本、雑巾六十三枚、野口小学校に。▽ 若柳吉紀美（七里）菓子、老人ホームに。▽ 日光離子保存会と民謡会（代表吉野喜一）演芸とそば、うどん、たばこ、飲物、果物老人ホームに。

日光の人物史

市史編さん室

だより

(43)

徳川期の農民の父

二宮 尊徳

二宮金次郎（のちの尊徳）の名を、知っている現代っ子は少ない。

しかし、江戸封建時代の恵まれぬ一農民の子として生まれ、苦心しつつ自学し、貧困のどん底から奮起して一家を興し、北は岩手県から南は滋賀県に及ぶ広大な地域に、報徳仕法を施行して、興国安民の大道を実現した偉材として日本の人物史から、彼の名が消えることはないでしょう。

十三歳で一家が離散してから、苦心のすえ二十四歳で一

家の再興を志した尊徳は、奉公した小田原藩の家老、服部家の建て直しにも成功し、抜群の農業技術と独特の哲学で、江戸幕府の当事者にも、当代一流の実地指導者として認められるようになった。

尊徳が、日光奉行手附となり日光御神領仕法に着手することになったのは、嘉永六年（一八五三）二月です。

当時の日光御神領は、八十九か村で、戸数四千百十三軒、人口二万二千八百八十八人、馬二千六百六十九頭、御神領中の石高は、総数二万九百六十五石余で

あり、生地三千七百四反六畝、荒地九百八十八反五畝と記録されており、神領の約四分の一が荒地ということは地域の荒廃と、生活の貧しさがうかがわれます。

村役人の案内で、日光鉢石を振り出しに、約一か月間、神領内を巡回して調査を行った尊徳は、開拓に努力している農民は表彰し、貧困者には救助金を与えて励ますなど、独自の仕法（事業計画、実施計画、現場教育を一つにしたようなもの）により、神領の開発に力を注ぎました。

日光仕法に着手して三年目の安政二年十月二十日、尊徳は、報徳役所で惜しまれつつその生涯を閉じましたが、その仕法は、尊徳の死後も息子弥太郎と高弟の富田高慶らによって引き継がれ、明治維新までの十五間に、総額一万六千四百両余の巨費が投入され、四百八十三町余（四八〇ヘクタール）の田畑の、再興または開発、五六キロ以上に及ぶ農業用水路の改善、新設をはじめ、道路の開発や修繕事業も、のべ二〇キロ以上に及び、貧しい農民への無利子貸付（五千二百二十八人）など、多くの農民が救われました。



今市市「報徳神社」境内にある尊徳の像